

2021年3月5日

## 新型コロナウイルスのワクチン接種について

公益社団法人日本皮膚科学会  
アトピー性皮膚炎・蕁麻疹治療安全性検討委員会

2021年2月14日、ファイザー社とビオンテック社が共同開発した mRNA ワクチンが国内で承認され、2月17日より医療従事者を対象とした先行接種が開始されています。アストラゼネカ社のウイルスベクターワクチンは2月5日に承認申請が行われ、モデルナ社の mRNA ワクチンは国内で進行中の臨床試験の結果を受けて承認申請される見通しです。

全身療法（経口薬、生物学的製剤）をうけているアトピー性皮膚炎および蕁麻疹患者に対する mRNA ワクチン接種に関しては十分な情報がありませんが、国外からは以下のような見解が示されております。

1. アトピー性皮膚炎および蕁麻疹患者へも健常人同様に mRNA ワクチン接種が推奨される
2. アトピー性皮膚炎および蕁麻疹に対する全身療法は mRNA ワクチン接種の禁忌とならない
3. 現在全身療法中でも mRNA ワクチン接種に際して治療を中断する必要はない

ウイルスベクターワクチンに関しては、生ワクチンではありませんが、推奨度や注意喚起については言及されておられません。

ワクチン接種の施行を決める際は、医師患者間で安全性と有効性についての留意点を十分に共有したうえで、最終的に患者本人の意向を確認することが望ましいと考えられます。

なお、国内で2020年12月にアトピー性皮膚炎に対して保険適用された、JAK 阻害内服薬であるバリシチニブについては、国内外で異なる見解が示されています。

European Task Force on Atopic Dermatitis (ETFAD)は、最近の論文（J Eur Acad Dermatol Venereol. 2021 Feb 15. doi: 10.1111/jdv.17167）で、ワクチン接種後1週間は JAK 阻害内服薬を休薬することを推奨しています。

それに対して、JAK 阻害内服薬の先行適応を有し、既に臨床に広く用いられているリウマチ領域では、日本リウマチ学会が見解を示しており、「免疫抑制薬、生物学的製剤、抗リウマチ薬、ステロイドは、原則として同じ用量で継続投与」（ただし感染症の兆候がある場合は、ステロイドは原則同じ用量で維持、それ以外は減量や投与一時延期などを慎重に検討し、通常の感染症時と同様に対応）となっています。JAK 阻害内服薬も免疫抑制薬の中に含まれるという理解です。

<参考>

American Academy of Dermatology Association

<https://www.aad.org/member/practice/coronavirus/vaccines>

British Association of Dermatologists

<https://www.bad.org.uk/healthcare-professionals/covid-19/covid-19-immunosuppressed-patients>

European Academy of Dermatology and Venereology

<https://eadv.org/covid-19/task-force>

日本リウマチ学会

<https://www.ryumachi-jp.com/information/medical/covid-19/#jcr>